

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	<b>提案機関名</b>	湘南家畜保健衛生所
92		
※記入不要		

**要望問題**

本県における牛受精卵移植技術の今後の動向予測

**要望問題の内容** 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】

牛受精卵の移植技術は、雌雄判別技術も含め、既に野外応用の段階に入り数年が経過しているが、本県において、受精卵の移植実績（購入受精卵の移植が多い）に比較して、受精卵の採取実績が著しく低いことの現状を分析し、本県における今後の牛受精卵移植技術の動向を予測し、それに向けて、どのような技術研究が必要か調査する。

<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>研究対応区分</b>	①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（ ②根府川試験場    ③三浦試験場    ④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所    ⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場    ⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	畜産研究所
部 署	畜産工学部
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)
<b>対応の内容等</b>	<p>農林水産省の平成13年度の集計による、供卵牛頭数15,282頭に対して移植頭数が52,668頭であり、供卵牛1頭当たりの移植頭数は3.4頭となっています。当所についても、平成14年度は供卵牛1頭当たり2.5頭の移植となっています。</p> <p>受精卵移植技術については、生産努力目標の達成のための改良増殖手段として位置づけられており、当所としては採卵成績や受胎率の向上、雌雄産み分け技術の実用化、生体内卵胞卵子の利用等に係る試験研究に取り組んでいます。今後、現場段階での技術利用の課題や要望等を把握しながら、新たな試験研究を展開していく予定です。</p> <p>平成15年度には、受精卵移植に係る取り組みの状況を把握するため、受精卵移植を行っている県下の農家集団に対して聞き取り調査を行う計画です。調査結果については、改良事業の推進会議等に情報提供し、今後の事業展開の検討材料としたいと思っております。</p>
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>備考</b>	